



図 7-6 無障害物の生育状況 (N-4.1 北側)

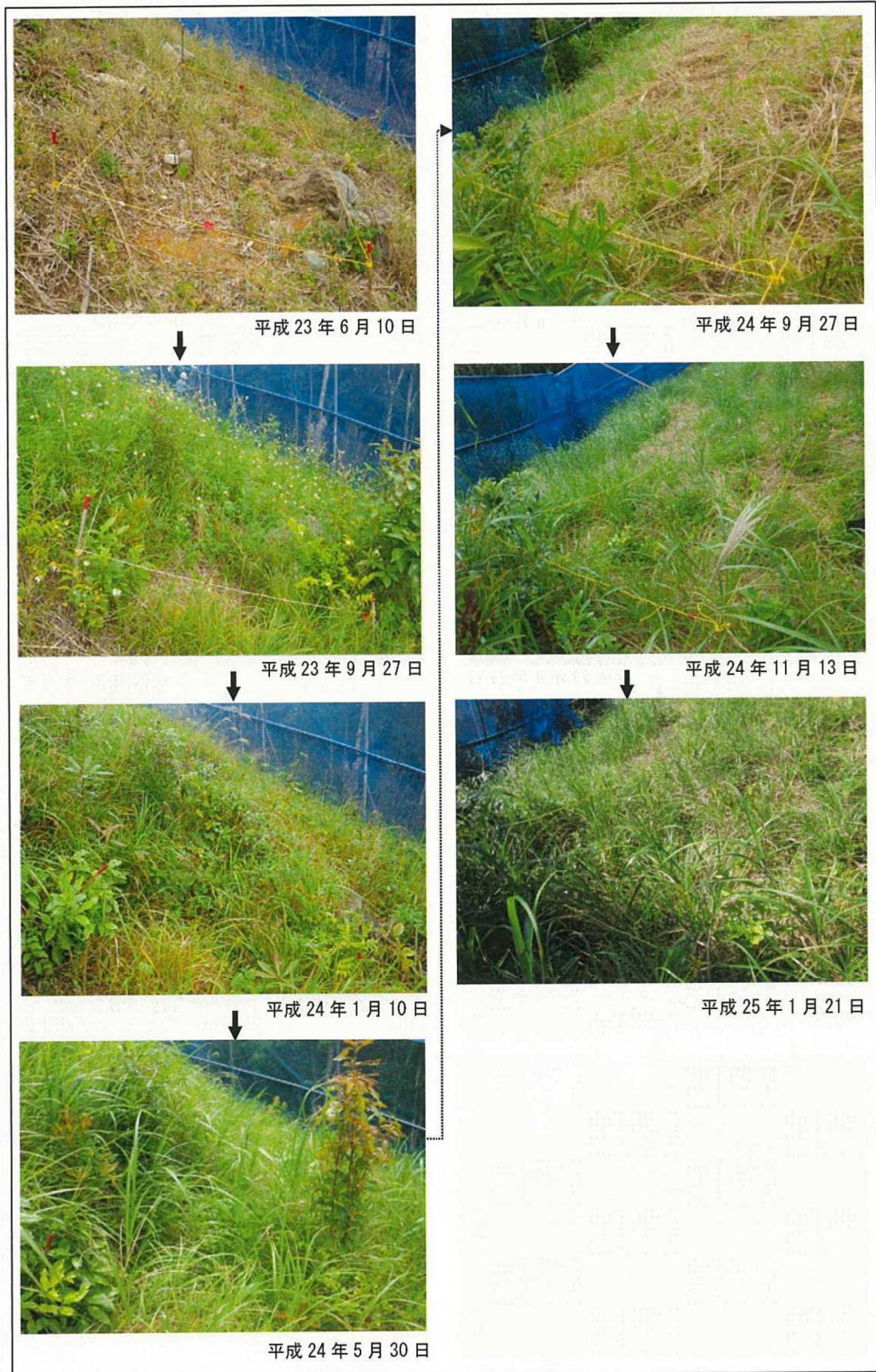


図 7-7 無障害物の生育状況 (N-4.1 南東側)

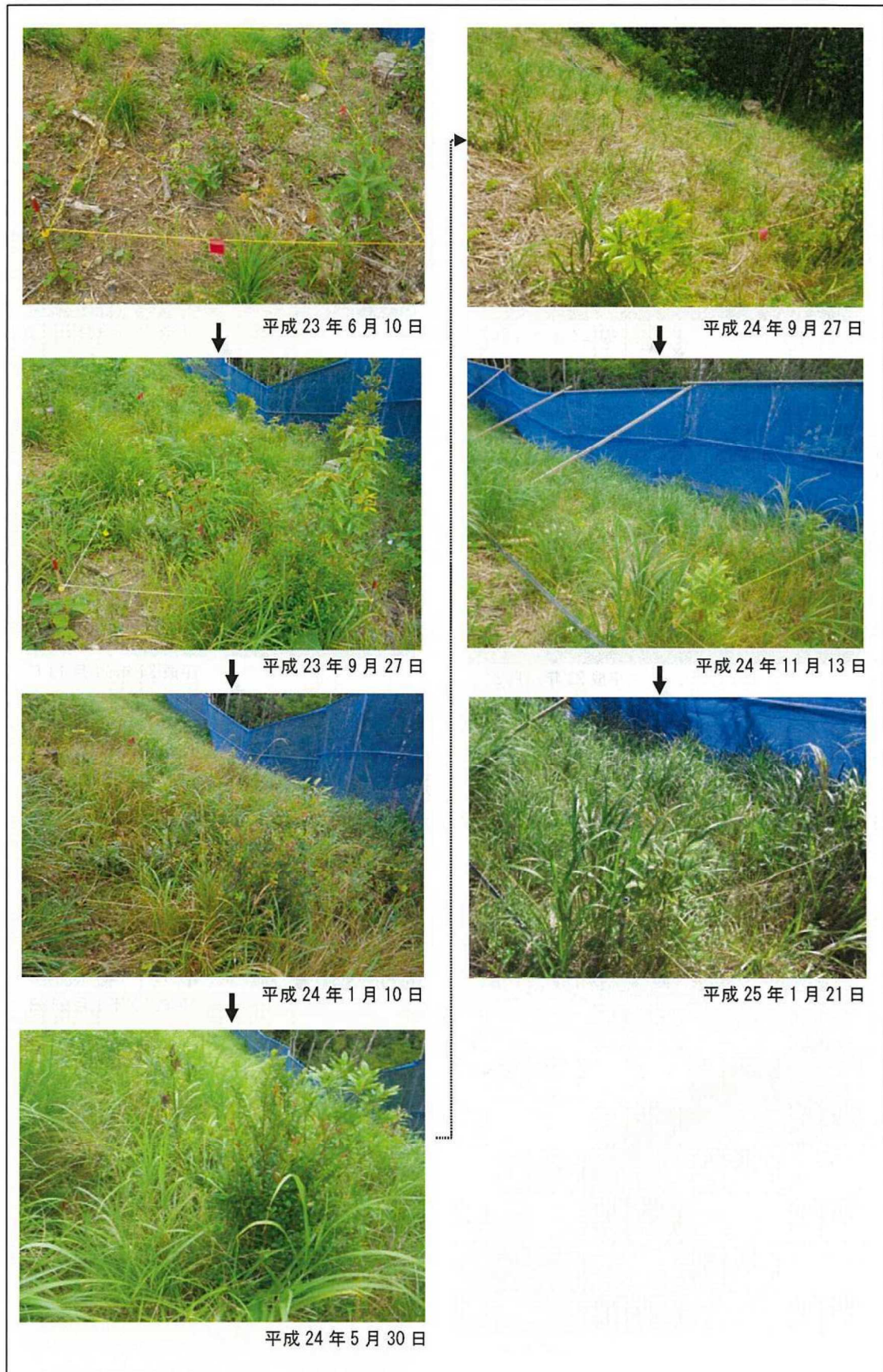


図 7-8 無障害物の生育状況 (N-4.1 南側)

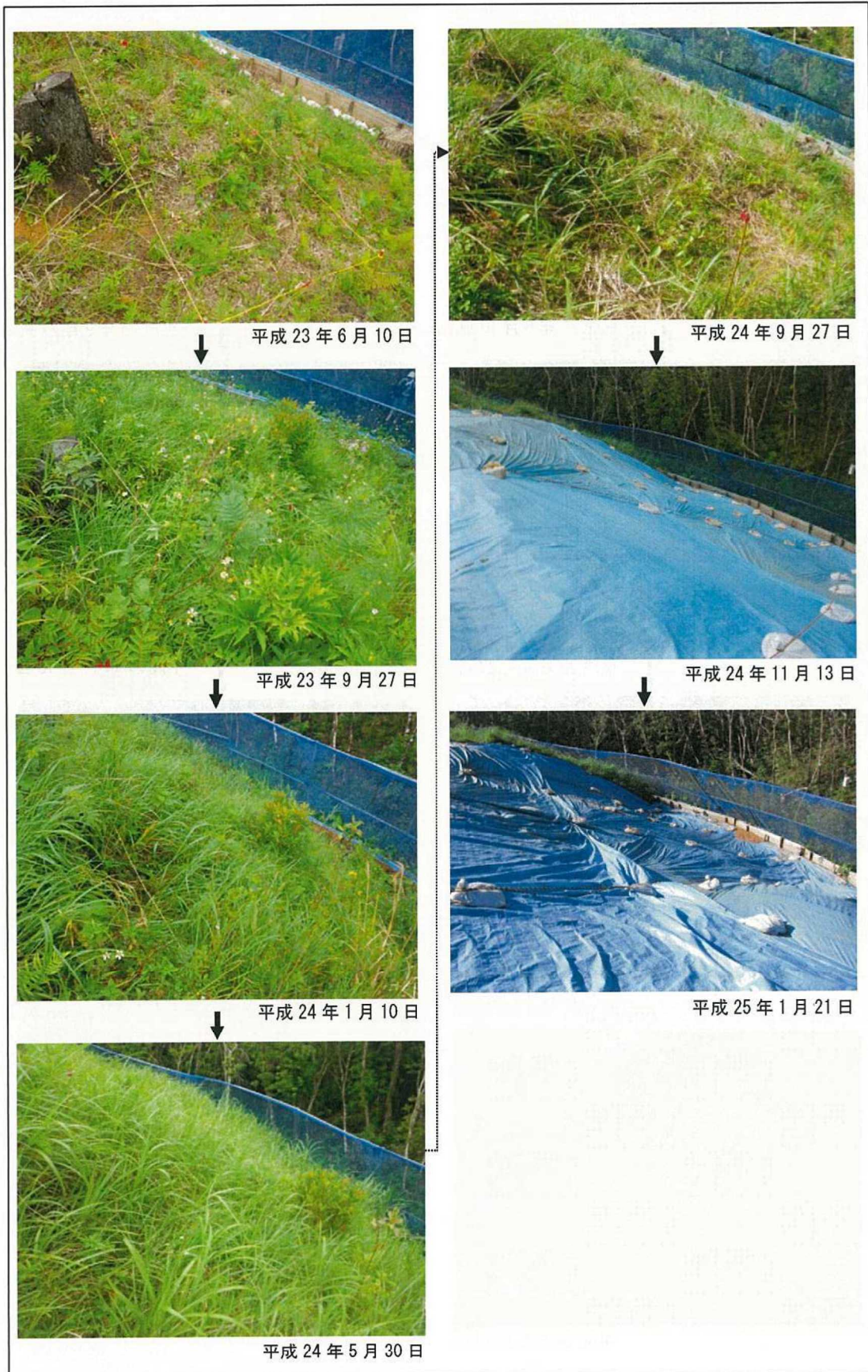


図 7-9 無障害物の生育状況(N-4.1 西側)

## 7.4 動物

### 7.4.1 事業実施区域における貴重な動物種の生息状況

#### 1) 生息状況

N-4.1 における事業実施区域及び周辺に生息する貴重な動物種の生息状況について、経年変化を表 7-17 に示した。

その結果、出現種は工事前で 26 種、平成 23 年度で 25 種、平成 24 年度で 28 種が確認され、調査季節は異なるものの、出現種類数に大きな変化は確認されなかった。

表 7-17 事業実施区域における貴重な動物種の生息状況の経年変化(N-4.1)

種名	調査年度		
	工事前 (平成 22 年度)	平成 23 年度 (6 月)	平成 24 年度 (10 月)
哺乳類	-	-	1
鳥類	1	-	-
	-	-	1
	-	1	3
	3	1	-
	1	15	4
	-	1	2
	2	6	3
	-	-	2
爬虫類	1	1	7
	-	-	1
	-	-	1
両生類	3	6	15, 幼生 1
	8	4, 幼生 27	7
	11	3, 幼生 2	13
	1	-	-
	5	3, 幼体 2	27
昆虫類	-	5	13
	-	幼体 2, 幼生 15, 卵塊 3	2, 幼体 1
	-	10	-
	-	1	-
	5	7	2
	7	-	2
	1	-	-
	3	-	-
	1	1	-
	1	-	-
-	1	-	
-	5	-	
-	1	-	
クモ類	39 以上	7	62
陸産貝類	1	1	1
	1	2	1
	4	2	2
	5	-	-
	-	-	11
	15	-	7
	8	-	-
	-	-	6
	4	1	2
	2	3	47
4	-	2	
合計	26 種	25 種	28 種

注 1) 調査結果は、事業実施区域及び事業実施区域の縁辺から外側へ 50m の範囲内での確認状況を示した。

注 2) - は未確認を示す。

## 2) 貴重な動物種の移動後の生息状況

移動した  のモニタリングの結果を表 7-18 に示した。捕獲移動先である 2 箇所のうち、No. 2 では第 1 回モニタリングにおいて、削りかすの排出が見られた。第 2 回モニタリング以降は排出が見られず、また朽ち木の腐朽・枯損が進んだことから新たな生息地へと移動し、現在は生息しないものと判断した。そのため、第 4 回目の調査で周辺を確認したところ、移植先周辺で生息を確認した。No. 4 では調査期間を通じて削りかすの排出を確認したことから安定して生息しているものと判断した。

移動した  のモニタリング結果を表 7-19 に示した。捕獲移動先である No. 1 から No. 8 までの 8 箇所のいずれの箇所でも調査期間を通じて生息を確認した。各移動箇所の生息数は、調査期間を通じて若干の変動が見られたが、一部では降雨等による斜面の崩れによる巣穴の消失が変動要因であった。このほか、個体の成長等に伴う巣穴の作り替えで個体が他所へ移動したと考えられる箇所も見受けられた。

よって、本調査結果からは、移動した個体は環境の変化に伴い若干の変動はみられるものの、その多くは新たな環境において生息しているものと考えられる。

表 7-18 昆虫類のモニタリング調査結果(N-4.1)

種名及び移動先 No.		当初移動数 (平成 23 年 2 月)	平成 23 年度			平成 24 年度
			第 1 回 (夏季)	第 2 回 (秋季)	第 3 回 (冬季)	第 4 回 (春季)
<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 150px; height: 1em;"></span>	No. 2	生息木 1 (成体 3、幼体 3)	○	—	—	○ (周辺で確認)
	No. 4	生息木 1 (成体 2)	○	○	○	○

凡例) ○: 排出かすから、朽ち木内の生息を確認

—: 朽ち木外見からは生息を確認できず。

表 7-19 クモ類のモニタリング調査結果(N-4.1)

種名及び移動先 No.		当初移動数 (平成 23 年 2 月)	平成 23 年度			平成 24 年度	備考
			第 1 回 (夏季)	第 2 回 (秋季)	第 3 回 (冬季)	第 4 回 (春季)	
<span style="border: 1px solid red; display: inline-block; width: 100px; height: 1em;"></span>	No. 1	17	37	24	31	32	
	No. 2	17	15	11	15	12	
	No. 3	10	9	17	17	21	
	No. 4	10	19	16	22	15	斜面に一部崩れ有り
	No. 5	35	18	5	12	14	斜面に一部崩れ有り
	No. 6	30	12	13	14	18	
	No. 7	15	8	5	5	5	
	No. 8	35	44	33	33	30	斜面に一部崩れ有り
合計		169	162	124	149	147	

#### 7.4.2 流下経路に生息する貴重な両生類、魚類、水生昆虫類の生息・繁殖状況

N-4.1 における流下経路に生息する貴重な両生類、魚類、水生昆虫類の生息繁殖状況について、経年変化を表 7-20 に示した。

その結果、平成 23～24 年度に実施した調査においては、流下経路の繁殖状況に大きな変化はみられなかった。

表 7-20 流下経路に生息する貴重な両生類、魚類、水生昆虫類の生息・繁殖状況の経年変化(N-4.1)

種名	調査年度		
	工事前 (平成 22 年度)	平成 23 年度	平成 24 年度
両生類	◎(幼生)	◎(幼生)	◎(幼生)
	○	◎(幼生)	◎(幼生)
	◎(亜成体)	◎(卵塊)	◎(卵塊、幼生)
	◎(幼生)	-	◎(幼生)
	○	◎(卵塊、幼生、幼体)	◎(卵塊、幼生、幼体)
魚類	◎(幼魚)	◎(稚魚)	○注 2)
水生昆虫類	-	-	-
	◎(幼虫)	◎(幼虫)	◎(幼虫)
	-	-	◎(幼虫)
	-	◎(幼虫)	◎(幼虫)
	-	-	-
	-	◎(幼虫)	◎(幼虫)
	-	◎(幼虫)	-
	-	○	-
	○	◎(交尾)	○
	◎(幼虫)	◎(幼虫)	◎(幼虫)
合計	合計 9 種 ◎: 6 種 ○: 3 種	合計 12 種 ◎: 11 種 ○: 1 種	合計 12 種 ◎: 10 種 ○: 2 種

注 1) ◎は繁殖に係わる状態(交尾・産卵・卵塊・幼生・幼体・亜成体・幼虫・稚魚・稚魚等)での確認を、○は成体のみ確認、-は未確認を示す。

注 2)                     の繁殖期ではないため、平成 24 年度では稚魚の浮遊等は確認されなかった。ただし、本種は陸封型の魚類のため、当該河川で繁殖しているものと推測される。





その結果、工事ピーク時期の重機の稼働状況において、繁殖地における騒音状況は、等価騒音レベルの時間帯平均は 38 dB(A) であり、評価書の影響が予測される騒音レベル 70dB を下回った。

#### 7.4.4 工事用車両の走行に伴うロードキルの状況

N-4 地区の工事用車両の走行に伴うロードキルの状況について、表 7-23 に示した。調査では、合計 9 件 17 個体のロードキルを確認した。また、調査時には動物の横断が確認されており、特に第 3 回調査では、動物の横断や鳥類の低空飛翔路の確認が多かったため、工事関係者へ改めて周知を行った。

表 7-23 ロードキル調査結果

調査回	確認内容
第 1 回	・爬虫類のオキナワキノボリトカゲ 1 件 1 個体のロードキルを確認
第 2 回	・ロードキルの確認無し
第 3 回	・両生類のシリケンイモリ 5 件 11 個体、種不明カエル類 1 件 1 個体のロードキルを確認。
第 4 回	・両生類のシリケンイモリ 2 件 4 個体のロードキルを確認